

函館

2010年4・5月 第11号

ハリストス正教会



発行者：函館ハリストス正教会 司祭ニコライ・ド・ミートリエフ
〒040-0054 函館市元町3-13

TEL(0138)23-7387/FAX (0138) 23-7939

編集者：会報編集委員会 郵便振替 02660-5-1721

主イイス・ハリストスの光明なる復活を心よりお祝い申し上げます！

ハリストス 復活！

たれ 誰か敬虔にして神を愛する者ならば、この美しき光明なる祭を楽しむべし。
うるわ ころめい まつり

(聖金ロイオアンの復活祭の説教より)

私たちは今年4月4日、正教会の一年間の奉神礼サイクルの中で最も大きな祭日である復活祭を迎え、今、光明週間の喜びの中にあります。正教会の祈禱文では復活祭を「祭りの祭り、祝いの祝いなり」(復活祭早課のカノン第八歌頌)と歌い、聖使徒パウエルは「もしハリストス復活せざりならば、我等の伝うる所空しく、爾等の信もまた空し」(コリンフ前書15;14)と言っています。私たち正教のハリストシアニンの信仰の中心は、主の復活にあります。

かつて最初の人間、アダムとエヴァが罪を犯し、楽園から追放されて以来、人間はこの世の限りある生命を終えた後は朽ちる者でした。しかし、主・神の子が人間の体をとって降誕され、神でありながら人間の体のまま十字架に釘打たれ、人間の罪を神

が自分の身に受けて肉体において死し、三日目に復活されたことによって、人間には再び天の国に戻る道が開かれたのです。



▲ 主の復活のイコン

主ハリストスが復活し、ご自分の肉体の死をもって死を滅ぼした(「ハリストス、死より復活し、死をもって死を滅ぼし、墓に在る者に生命を賜えり」[復活祭のトロバリ])と歌う一方で、私たちの周りで人が死んでいくのはどうしてだろう、と思う人もいるかもしれません。

それは、主ハリストスが復活される前の人間の死は、永遠の死であり暗闇であったのに対し、主ハリストスの復活後の人間の死は、主ハリストスを神と信ずる者にとっては、最後の復活(最後の審判)までの一時的な眠りに過ぎないという意味です。私たちの元祖アダムとエヴァの時代に人間

の中に入った「罪」を自分の中に保ち続けている私たち人間の肉体は、永遠の天の国に入る前に一度は滅びなければなりません。私たちは、現在生きている間に着ている肉体のままで天の国に入るのに相応しくないのです。しかし、それは永遠の死ではなく、最後の復活の日までの暫時の眠りなのです。私たちが今年4月4日に復活祭を迎える8日前、3月27日(土)に正教会は「ラザリのスポタ」と呼ばれる奉神札を行ないました。死後四日経っていたラザリを主ハリストスが墓から復活させた出来事(イオアン伝11:1～45)を記憶するものですが、これはまさにこの世の最後に来る「万人の復活」の予象です。

神が造られた時には、楽園に住むものとして置かれたのにもかかわらず、罪を犯し、楽園に住む者に相応しくなくなった哀れな人間を、また天に帰すために払われた代価——それは、神の子ハリス

トスの降誕であり、受造物である人間からの裏切りであり、十字架上の死でありました。これほどの代価を払ってまで、人間を救おうとされた神の大きな愛を前にして私たちが痛感することは、人間の霊の救いは、人間の努力によって手に入れられるものでは到底ないということ、主・神の憐れみによってのみ人間は救われるのだという真実です。

それなのに、人間は時として、主・神の前で如何に不遜な態度をとることでしょう。恰も、自分の人生は自分の手中にあるかのように。人間は自分の不完全さを認識した時、初めて主・神の前に従順謙遜になることができます。これが真福九端の最初にある

「心の貧しきものは福なり、天国は彼らのものなればなり」の意味です。救いの道の第一歩は、自分の心の貧しさを認識することです。これがなければ正しい信仰は在り得ません。正教会の聖師父たちが「従順謙遜の無い信仰は在り得ない」と言っているのはこの意味です。

私たち人間への神の大いなる憐れみと愛に対して、私たちは何をもって応えることができるのでしょうか。私たちはこの愛を敬虔と畏れをもって受けとめ、感謝して主に喜ばれる道を歩むべきです。「しなければならない」から行なうのではなく、主・神を悲しませ

ることを恐れ、主の道を自分の人生の道として全うするべきです。

正教会は人間の本分を次のように教えています。「人間の本分とは、神を認識し、神に倣い、神の如くなることである」。天地創造の時に人間も創造された主・神は、人間にこのような本分を与えられたのです。喜びに満ちて自分の本分を全うする生き方が

できる人は、真に福な人です。なぜならば、天国とはどこか空の上に在る空間なのではなく、人間の霊の中に在る状態なのです。正教会の聖師父たちは次のように教えています。「この世に生きているうちに天国のことを思わなかった霊が、死後、天国に行くことはない」。洗礼を受け、主ハリストスの教えに従うことは天国への確実な道です。なぜならば主ハリストスの復活こそが、天国への鍵だからです。

(司祭ニコライ・ドミートリエフ)



▲ ロシアの復活祭カードより

実に復活！

2010年 大齋から復活祭へ

2月15日(月)に大齋第一週に入ってから6週間の大齋。さらに3月28日(日)に聖枝祭(主ハリストスのイエルサリム入城)を祝ってから1週間の受難週間。そして4月4日(日)の復活祭。

前号の教会報の中で「復活祭前の大齋及び受難週間とは、期間として一年の十分の一に当ものいみたり、人生の十分の一を特に祈りと齋の期間として神に捧げるための時期である」ことについて書いたが、今年の「十分の一」を私たちはどのように過ごしただろうか。

復活祭の夜、私たちは聖金ロイオアンの説教の中で「節制の者及び怠惰の者は日を尊べ。齋せし者齋せざりし者は今日楽しめ」という言葉を聞く。主・神は齋を行った者のためだけに復活されたのではないからである。それでは、なぜ齋や節制が必要なのだろうか。天の国に入ることが約束されているような聖人たちすら決して互いに同等なのではないということを思い起こしてみよう。ある聖人は一等星のように輝き、ある聖人は二等星のように輝く。正教会の伝統をたましい然るべく敬虔に守った者がその霊において受けとめる復活祭の喜びと、何の準備も行なわなかった霊が復活祭の日に感ずることができる主の復活の意味との間に、何の違いも無いということは無いのである。

今年、函館正教会では、受難週間の信徒の参拝を特に聖大金曜日の主の葬りと十字行へと促した。造物である人間が造物主である主ハリストスを十字架に掛けたという人間の愚かさ。十字架から降ろされて横たわった主ハリストスの体が「眠りの聖像」として王門から聖堂の中央に現れる瞬間、私たちの霊は何を感ずるだろうか。普段聖堂で行われるどのような埋葬式にも感ずることのない「畏怖」…。多くの参拝者が聖大金曜日の参拝を霊の宝物のように感じたことであろう。このような経験を経てこそ、復活祭の夜に「霊の実り」の特別な手ごたえを感ずることができる。

聖枝祭以降、復活祭に至るまでの今年の函館正教会の歩みを以下、ポイント的に辿ってみた(次頁に続く)。

下の写真(左、中央)は、今年も聖枝祭のためにネコヤナギを採取して下さったニコライ神父様とイオフ馬場神父様。木に登られた馬場神父様の身軽なこと。お若いのです！

下の写真(右)は、ネコヤナギ採取翌日、即ち聖枝祭当日の吹雪の函館。前日の抜けるような



青空は、神父様お二人のための神さまの祝福だったのですね。

聖大金曜日、最後の「エフレムの祝文」と伏拝。齋の旋律で歌ってきた連祷も今日が最後。



聖大木曜日夜は、十二福音。主ハリストスの十字架上の苦しみを記述した箇所を福音書の中から十二箇所。パニカジエラを消し、ろうそくの光だけの堂内。主ハリストスと一緒に十字架に掛けられ、人生の最後に主ハリストスを神と認め、天国に入った「善智なる盗賊(ラズボーイニク ブラゴラズウームヌイ **разбойник благоразумный**)」の如く我をも救い賜え、と歌うエグザポスチラーリ「ラズボーイニク」(教会スラヴ語)は、昨年と同じく女性三部。

聖大金曜日は、午前中から650個の卵染め(NHKの取材)。午後3時より「眠りの聖像」の捧出。午後5時より聖大土曜日早課。「眠りの聖像」の十字行(写真下)。



聖大土曜日の朝、聖大ワシリイの聖体礼儀。主の復活の福音経が読まれる前に、聖堂内の大斎用のランパーダとアナロイ掛けが復活祭用に替えられていく。赤いランパーダに灯されたろうそくの光と共に復活の喜びが静かに聖堂に流れ始める。

聖大土曜日の夜、11時30分、復活祭夜半課の始まり。「ハリストス救世主や、神の使いら天において爾の復活を崇め歌う、我等にも地において、潔き心をもって、爾を讃め歌わしめ給え」——復活祭のステヒラを歌いながら十字行。今年の復活祭の夜、信徒が手に持ったろうそくはロシア製の蜜蝋。ニコライ神父様からのプレゼント。復活祭の夜、聖堂で灯した手持ちろうそくは家に持ち帰り、光明週間にイコンの前で灯すのが正教会の伝統。聖体礼儀後は、九州、広島、青森、札幌、上武佐から来函し、参拝した信徒も加わり、信徒会館にて婦人会心づくしの祝賀会の食卓を囲んだ。



函館新聞より
—記事(左)と写真(上2枚)—

ハリストス(キリスト)復活大祭(4日)を控え、函館市元町の函館ハリストス正教会(ニコイ・ドミートリエフ司祭)で、聖大金曜日の奉事が行われた。今年ばかりの復活祭、プロテスタント教会の復活祭、ハリストス正教会の復活大祭は同じ

キリスト復活祭へ「聖大金曜日奉事」

ハリストス正教会

4日行われる。2日は信者約4人が参加。午後3時から「眠りの聖像」と呼ばれるイコンが聖堂の中央に安置され、同5時から聖歌や祈り。

3日は午後1時半から復活大祭が行われ、4日午前奉事から「眠りの聖像」が捧出される。復活祭の夜、信徒が手に持ったろうそくはロシア製の蜜蝋。ニコライ神父様からのプレゼント。復活祭の夜、聖堂で灯した手持ちろうそくは家に持ち帰り、光明週間にイコンの前で灯すのが正教会の伝統。聖体礼儀後は、九州、広島、青森、札幌、上武佐から来函し、参拝した信徒も加わり、信徒会館にて婦人会心づくしの祝賀会の食卓を囲んだ。

(山崎純)



▲ 成聖を待つクリーチ、パスハ、エッグ



▲ 信徒会館にて復活祭祝賀会

2009年度北海道ブロック聖歌研修会



▲ 祈りと学びを共にした参加者



▲ 主教祈禱による春のパニヒダ

3月20日(土)、21日(日)、22日(月)、函館正教会を会場として「2009年度北海道ブロック聖歌研修会」が行われた。全道の各教会と、函館正教会から合わせて約30名の参加者が3日間、祈りと学びを共にした。

20日(土)の主日前晩禱及び21日(日)の聖体礼儀、さらにその後の函館正教会春のパニヒダをセラフィム主教座下が司禱され、マルコ小池神父様(一関)、ニコライ神父様(函館)、イアコフ篠永神父様(苫小牧)が陪禱した。また、イオアン釜谷輔祭様(北鹿)も共にご祈禱に立たれた。21日の主日は、研修会参加者と函館正教会の参禱者を合わせて60名余の信徒が領聖に与った。

今回の研修会プログラムでは、予め参加者より出た希望に応じて、22日(月)、セラフィム主教座下が講話の時間を持たれた。テーマはビザンチン聖歌。アテネの主教座聖堂で行われたフリストドゥール大主教座下の降誕祭聖体礼儀のDVDを見ながら解説をして下さった。また、キリスト教初期に、全地公会において確立された教義や聖師父の教えを表した祈禱文について丁寧に教えて下さった。参加者からは「信仰や祈りについて、また正教会の聖神^o性についてじっくり考える有益な時間を持つことができた」という感想が聞かれた。

聖歌では、新たにアルハンゲリスキーの大連禱、晩課の第33聖詠、大詠頌(二番)がレパートリーに加わった。いずれも、正教会の奉神礼の美しさと深さを感じさせる祈りの場に相応しいハーモニーである。今回の研修会には、正教会聖歌に真摯な熱意をもっておられる未信徒のオブザーバー参加者もあり、聖歌を伝道の一環として門戸を開く試みへの一歩となった。

(スヴェトラナ山崎瞳 記)



▲ 「我が霊や、主を讃め揚げよ」

《北海道ブロック教会学校教師会・宣教会議》

1月30日(土)、31日(日)の2日間、札幌正教会にて、2009年度北海道ブロック教会学校教師会と第1回宣教会議が行われ、函館正教会よりニコライ神父様、ニコライ松井兄、ユリヤ松井姉、上磯正教会のマルファ佐藤姉が出席した。

30日の教師会では、各教会の教会学校の様子が報告され、札幌、函館の両教会においてはロシア人信徒の子供との交流や取り組みなどが話された。また、今夏開催予定の「キャンプだホイ」についての企画案が、担当となる釧路正教会より示された。翌31日の宣教会議では、宣教委員より教会活動が報告された後、2011年度実施予定の聖ニコライ渡来150年記念事業の進行状況をニコライ神父様が話され、これに伴う実施日の奉事と記念式典の準備として、3月20日より3日間にわたって函館正教会で開催される聖歌研修会及び次年度の研修内容が関係することから、各教会の理解と協力が求められた。



▲雪の中に美しく映える聖堂

《光の小径》

2月1日(月)から4日(木)まで、函館市主催のイベント「光の小径」が元町西部地区で行なわれた。市観光コンベンション部からの協力依頼により、この期間、聖堂の周囲と正門階段にキャンドルを並べ、午後5時から7時までの聖堂公開を行った。4日間とも強風や降雪は無く、穏やかな天気恵まれたが、気温は連夜-7℃前後。かなり強い冷え込みの中、カメラを手にした観光客たちが境内を訪れた。

《イースターエッグ講習会》

2月29日(土)、30日(日)の両日、信徒会館において市民を対象にした「ウクライナ風イースターエッグ講習会」(参加者17名)が行われた。

開会にあたってニコライ神父様が挨拶に立ち、正教会の復活祭とエッグのゆかりを説明された。参加者のほとんどは手法は勿論、キストカなどの材料も初めて目にしたという初心者であったが、講師となったイオアン盛田兄、アンナ下田姉、ニコライ松井兄、ユリヤ松井姉に助けられて、参加者全員が無事作品を完成し、喜びの内に会を終えることができた。また、リピートを希望する声が多く、講習会は年内にさらに2回開催されることとなった。次回からは信徒、未信徒を問わず参加者を募集する。

今後の講習会実施予定

- ・第2回 5月29日(土)・30日(日) 午後1時～4時
 - ・第3回 10月30日(土)・31日(日) 午後1時～4時
- いづれも定員は16名。申し込みは教会まで。



▲ 函館新聞の記事より

《「函館ハリストス正教会150年史(仮題)」編集作業について》

「編集委員会」と「作業班」が編成され作業が進められてきているが、2月と3月の2ヵ月間で市立中央図書館蔵の関連書籍の検索が行なわれた。「図書館班」は加納編集者、スヴェトラナ山崎姉、ユリヤ松井姉、エリザヴェータ加藤姉、ナデジダ高島姉、の5名。「ハリストス正教会」、「ニコライ」、「ロシア領事館」、「ロシア病院」などの検索ワードから抽出された書籍を調べ必要箇所をコピーした。また閉架書庫には加藤ワッサ姉が図書館に寄贈したアルバム約20冊が保管されており、これらの写真を撮影してCDに収める作業が行なわれた。

上記一連の作業は、函館正教会管轄司祭からの書面での協力依頼に図書館長長谷部氏が快く応じ、配慮してくれたおかげで順調に進んだ。

3月14日(日)、第三回編集委員会が行われ、「執筆班」として明治期をスヴェトラナ山崎姉、大正・昭和前期をイシドル中居兄、昭和後期・平成期をユリヤ松井姉が担当することになった。また来年の発行までの作業スケジュールの補正が行なわれた。



▲市立図書館内グループ研究室にて

～ 頒布品の紹介 ～

「日本正教会の歴史Ⅰ」

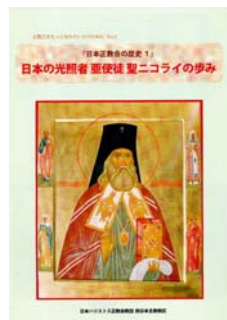
(日本の光照者使徒聖ニコライの歩み) 頒布価格200円

西日本主教区発行の歴史ブックレット。聖ニコライの函館時代や日本正教会の黎明期についてわかり易く紹介している。豊富な写真史料が興味深い。

「函館開港と音楽」 頒布価格800円

函館が「西洋音楽受容さきがけの地」となったきっかけの「函館開港」の歴史と、外国船によって運ばれてきた西洋音楽についての歴史ガイドブック。正教会関連では、函館にもたらされたロシア正教会聖歌について、また白河正教会所蔵の楽譜の紹介、正教会音楽年表などが掲載されている。全体に物語的に編集されていて読み易い。函館メサイア教育コンサート実行委員会発行。

ご希望の方は、教会までご連絡下さい。



婦人会

お当番さん、宜しくお願いいたします!

◎4月のお当番…高井醇子姉・高井和枝姉・藤村春恵姉(昼食準備は4月18日)

5月からは新たに編成された当番表によります。

◎5月のお当番…斉藤梅子姉・吉川君枝姉・吉川妙子姉(昼食準備は5月2日、16日)

4・5月の聖名祭

(5月2日に行います。)

聖体礼儀に引き続き行いますので、該当する方は是非ご参拝下さい。

聖名祭	聖名	氏名	聖名祭	聖名	氏名
4/1	ダリヤ	森 幸子 吉川静枝	24	レオニード	鈴木靖之
2	フォティナ	清宮三伽	29	イリナ	鈴木恵美子
5	リディヤ	下田明子 中居寿子 森 久子	5/6	ゲオルギイ	薄井晃一 吉川宗志
	ニーコン	鈴木 達	8	マルコ	中居祐貴
9	マトロナ	藤村春恵	16	マウラ	大村くみ子
	イオアン	今野卓也	18	イリナ	入間川玲子 斉藤敏子 吉川妙子
10	ステファン	佐藤 正	21	イオアン	村井法之
11	マルコ	荻原尚志 西村正弘	22	ニコライ	佐藤松男
12	エウウーラ	近藤智子	27	イシドル	中居真行
14	マリヤ	薄井萌子	31	ユリヤ	手塚羊子 松井真佐子
17	イオシフ	落合良治			

画 像



上磯ハリストス正教会だより

赦罪の晩課

2月14日(日)、断酪の主日の聖体礼儀の後、赦罪の晩課が行なわれた。上磯正教会で聖体礼儀が行われる第二主日に赦罪の晩課が当たるのは稀である。祈祷の前に、ニコライ神父様より赦罪の晩課の意味について、また「痛悔と祈りの時期」である大斎を前にして、お互いに赦し合うことの大切さについてお話があった。いつもの連祷の旋律とは異なる大斎の調の連祷が聖堂に響いた。



▲ 赦罪の晩課に参拝した皆さん

婦人会総会

2月14日(日)、聖体礼儀の後、2009年度婦人会総会が行なわれた。上磯正教会の婦人会は例年、2月の第二主日に行なわれる。決算の承認、食事当番の確認、行事計画についてなど活発に話し合われた。上磯正教会の婦人会には、函館正教会のバザーの際に大変お世話になっていることに対してニコライ神父様よりお礼の言葉があった。高齢化は否めないが、お互いに助け合いながら今年度も元気でがんばりましょう。



▲ 働き者揃いの婦人会の皆さん

田中家パニヒダ

3月21日(日)、マトロナ田中イサ姉の三年祭が田中克美兄宅において行なわれた。親族約20名が集まり、マトロナ姉の永遠の記憶を祈念した。



▲ 孫たちもたくさん集まりました

上磯ハリストス正教会復活祭のご案内

5月8日(土) 復活祭

5月9日(日) 墓地祈祷(聖堂でパニヒダを行った後、野崎墓地に移動します)

4月の奉事・行事予定

4/1(木)	函館	10:00	聖大ワシリイの聖体礼儀【最後の晚餐(領聖機密の確立)の記憶】
		17:00	早課(12福音)
2(金)	函館	11:00	卵染め
		15:00	晩課(眠りの聖像の捧出)
		17:00	早課(眠りの聖像の十字行)
3(土)	函館	10:00	聖大ワシリイの聖体礼儀
		23:30	復活祭夜半課・早課・時課・聖体礼儀
5日(月)～10日(土) 光明週間(斎無し)			
6(火)	函館	17:00	生神女福音祭徹夜禱
7(水)	函館	10:00	生神女福音祭聖体礼儀
10(土)	函館	17:00	復活後第2主日(フォマの主日)徹夜禱 福音経: マトフェイ28:16～20
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
11(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	主日聖体礼儀 第1調 誦経: 下田兄 使徒経: 使徒行実5:12～20 / 福音経: イオアン20:19～31
		13:30	復活後墓地祈禱
17(土)	函館	17:00	復活後第3主日(携香女の主日)徹夜禱 福音経: マルコ16:9～20
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
18(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	主日聖体礼儀 第2調 誦経: 吉川兄 使徒経: 使徒行実6:1～7 / 福音経: マルコ15:43～16:8
		13:30	婚配式
		15:00	執事会
24日(土)、25日(日) ニコライ神父、上磯正教会出張			
24(土)	上磯	19:00	主日晚課式
25(日)	上磯	10:00	主日聖体礼儀
	函館	10:00	復活後第4主日(癱者の主日)代式祈禱 第3調 代禱: 下田兄 / 誦経: 中居兄 使徒経: 使徒行実9:32～42 / イオアン5:1～15
		11:00	聖歌練習

～ イースターエッグ講習会のご案内 ～

2月末に行われたイースターエッグ講習会(第1回)は、参加者に大変好評でした！
下記の要領で第2回、第3回の講習会を開催することになりました。(申し込みは教会まで。)



日時(※2日間の講習会です)

・第2回 5月29日(土)、30日(日)

・第3回 10月30日(土)、31日(日)

時間: 午後1時～4時

定員: 16名

場所: 函館ハリストス正教会信徒会館

会費: 実費(300円程度)

* どなたでも参加できます *

5月の奉事・行事予定

5/1(土)	函館	17:00	復活後第5主日(サムリヤの婦人の主日)徹夜禱 福音経:イオアン20:1~10
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
2(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	主日聖体礼儀 第4調 誦経:下田兄 使徒経:使徒行実11:19~26、29~30/イオアン4:5~42 ※聖体礼儀の後、4・5月の聖名祭モレーベンと春の新人・進学モレーベンを 行います
		13:00	信徒学びの会・婦人会/教会学校
8日(土)、9日(日) ニコライ神父、上磯正教会出張			
8(土)	上磯		復活祭
9(日)	上磯	10:00	墓地祈禱
	函館	10:00	復活後第6主日(警者の主日)代式祈禱 第5調 代禱:下田兄/誦経:中居兄 使徒経:使徒行実16:16~34/イオアン9:1~38
		11:00	聖歌練習
12(水)	函館	17:00	主の昇天祭徹夜禱
13(木)	函館	10:00	主の昇天祭聖体礼儀
15(土)	函館	17:00	復活後第7主日(諸聖神父の主日)徹夜禱 福音経:イオアン21:1~14
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
16(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	主日聖体礼儀 第6調 誦経:吉川兄 使徒経:使徒行実20:16~18、28~36 福音経:イオアン17:1~13
		13:00	執事会/聖歌勉強会
19(水)	函館	19:00	会報編集会議
22(土)	函館	17:00	五旬祭徹夜禱 福音経:イオアン20:19~23
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
23(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	五旬祭聖体礼儀 誦経:下田兄 使徒経:使徒行実2:1~11 福音経:イオアン7:37~52、8:12
		13:00	聖歌勉強会/教会学校(ロシア語教室)
29日(土)、30日(日) 北海道ブロック拡大宣教会議(於:釧路)/司祭、釧路正教会出張			
29(土)	函館	13:00	イースターエッグ講習会(1日目)
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
30(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	五旬祭後第1主日(衆聖人の主日)代式祈禱 代禱:下田兄/誦経:中居兄 使徒経:エウレイ11:33~12:2 福音経:マトフェイ10:32~33、37~38、19:27~30
		13:00	イースターエッグ講習会(2日目)